

緑枝接ぎ法における台木の簡易な 育成技術を開発しました



図1 挿し木用に調整した台木



図2 台木を圃場へ直接挿した様子

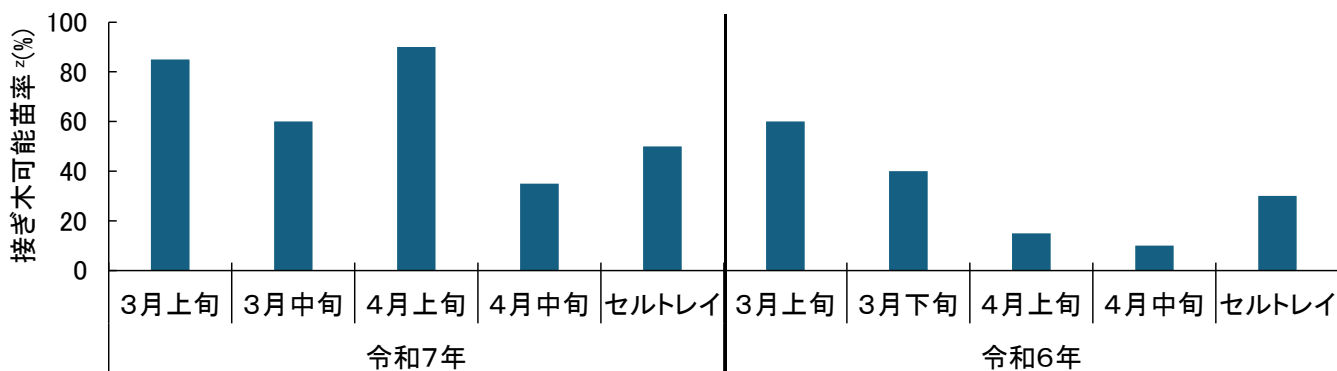


図3 2芽挿しによる圃場直接挿しでの接ぎ木可能率（令和6～7年）

注）図中の時期は圃場へ直接挿した時期であり、セルトレイでの育成後に圃場へ移植した場合と比較
 2 新梢基部から約10cm上の節間の径が4mm以上のものの割合

開発のねらい

緑枝接ぎ法では、台木を温床上のセルトレイに挿し木し、育成した苗を圃場に移植して伸長させて穂木（緑枝）を接ぎます。この場合、温床管理のための設備と労力が必要であり、移植時の植傷みにより、接ぎ木できる台木を十分に育成できない年もあります。そこで、台木を圃場に直接挿し木する簡易な手法を開発しました。

新技術の概要

- 台木の土壌に挿し入れる側にも節を残し、2芽挿しで圃場に直接挿し木すると、1芽挿しの場合より発芽までの日数が短く、接ぎ木が可能な苗の割合が高まります（図1、2）。
- 挿し木を行う時期は、3月以降のできるだけ早い時期であれば、接ぎ木が可能な苗の割合が40～90%と高く、セルトレイで育成した場合より生育が優れました（図3）。

活用場面

緑枝接ぎ法は、接ぎ挿し法より成苗率が高いブドウ苗木の育成方法であり、苗木の安定供給に大きく貢献します。